



8月24日（金）は、観音崎自然博物館で、「科学喫茶」。いつもお世話になっている山田学芸部長が司会で、パネラーが、これもお世話になっている、東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センターの田中隼人さん、ということで、三浦市から5人が参加してきました。

田中さんは、海岸の砂の間に住む間隙生物の研究の専門家、特に貝形虫（貝のような殻にエビのようなものが入っているらしい）の研究をしています。たいへん小さな生き物なので、その解剖の道具も針金をやすりでひたすら削って作るそうです。



8月27日（月）は、小網代湾の胴網海岸で、中学生対象に「海の教室」を開催しました。

これは、本研究所が主催したもので、テーマは「海のアクティビティ」、15名の生徒が参加しました。海洋教育の4つの柱のうち、「海を知る」「海に親しむ」ことに重点をおいたものです。



最初に、SUPに挑戦。インストラクターの方の指導で、沖に出ます。波も静かで、絶好のコンディションでした。ほとんどの子どもが初めての体験でしたが、全員が立って漕ぐことに成功し、横堀海岸沖までの往復を楽しみました。

続いて、磯釣りに挑戦しました。はじめは、えさのイソメがさわれず、大騒ぎしていた女子たちも、最後には、平気で触れるようになりました。専門家の指導で、ベラやクサフグ、トラギスなどを釣り上げていきます。海の透明度が高く、熱帯魚のような青や黄色の魚がえさに群がる様子もよく見えました。



中学生たちにとって、たいへん充実した一日になったようです。

参加した子どもたちの感想を紹介します。



- ・釣りで、いろいろな魚を獲ったり、エサを付けたりするのが楽しかった
- ・お魚が2匹釣れてうれしかった/初めてSUPが体験できてうれしかった
- ・SUPで、自分で進んでいる感覚が楽しかった
- ・釣りやSUPなど、めったにできない体験をさせてもらい、良い経験になった/せっかく三浦市民なので、今後もたくさん海と触れ合って行きたいと思った
- ・SUPの漕ぎ方、落ちた時のボードの乗り方がわかった
- ・SUPは、最初うまくいわずに座っていたけれど、立てるようになり、早く漕いだりして、すごくおもしろかった/釣りでは、1匹釣ることができてうれしかったし、まったり感がすごくよかった



- ・今回の体験で、改めて三浦の良さを知った/このような企画を、自分のように、あまり気にかけていない地元の人にも知れわたるようにしてほしい